

市長のあまねくつぶやき

梅雨の時期です。太陽の恵みと雨で植物が大きく育つ時期でもあります。高温多湿になるため、食べ物はどうしても腐敗しやすくなり、食中毒に注意しなければいけません。

では、食べ物において、腐敗と発酵はどのように違うのでしょうか。

簡単にいえば、微生物によって人体に有害なものになってしまふのが腐敗で、無害なものが発酵となります。発酵食品で有名なのが納豆や味噌、チーズやヨーグルトなどです。

お酒を造るときも発酵する力を使って作られます。先日、「紅コガネ」が発売されましたが、この芋焼酎を造るのにも発酵する力が使われています。青沼地区の春日神社の「どぶろく祭り」に振る舞われる「どぶろく」も発酵の力によりできあがるお酒です。

お酒の話をしていると、子供の頃に見たCMで河童がお酒を飲んでいっているシーンを思い出しました。

行方市には河童の恩返しという民話があります。むかし、芹沢の殿様が屋敷に帰る途中、馬の尻尾をつかんで川にひっぱり込もうとしていた河童をこらしめてやろうと刀で斬りつけました。河童は悲鳴をあげて川の中に姿を消し、屋敷に戻ると馬の尻尾に河童の手がぶら下がったままでした。その晩、河童がやってきて「私は梶無川の河童です。どうぞ腕を返してください」と頼むのです。かわいそうに思った殿様が返してやると、薬を傷口にぬり、ひよいと腕をくっつけました。



市長へのEメール
投稿用2次元コード



市政に対する意見や
提案をメールでお寄せ
ください。

行方市長 鈴木周也



驚いた殿様に、河童は葉の作り方と魚を届ける約束をしました。魚は毎日屋敷前の梅の木に2匹ずつぶら下がっていましたが、ある朝、いつもの梅の木に魚がなく、河童のことが心配になった殿様は川を探させたところ、上流の与沢という地で腕に傷跡がある年老いた河童のしかばねが見つかりました。恩を忘れなかった河童に感動した殿様は祠（ほこら）をたててその霊をまつりました（なめがた郷土かるたにこの民話の河童が描かれています）。

現在、行方市芹沢地区には「手奪橋（てばいばし）」という橋が架かっており、橋のたもとには河童の像も飾られています。また、河童が見つかった上流の小美玉市与沢には「手接神社（てつぎじんじや）」があります。

今月中には梅雨も上がり、本格的な夏が到来します。河童は頭のお皿が乾かないように人目のつかない川の涼しいところに隠れて、キュウリとお味噌を食べているかもしれませんね。

はい、こちら消費生活センター！

買え買え詐欺に気をつけて!!

年々振り込め詐欺の被害が増え続け、詐欺的なもうけ話もさまざまな手口があり、金融商品かどうか不明なもうけ話のトラブルが目立っています。これらの被害の背景には「買え買え詐欺」をはじめ「劇場型詐欺」と言われる手口が、いっそう悪質化・巧妙化していることがあげられます。

「買え買え詐欺」には次のような特徴があります。

- ①自宅に未公開株、社債、ファンドや何らかの権利取引のパンフレットや申込書を送ってくる。
- ②パンフレットや申込書が届く頃に合わせて、「代わりに購入してほしい」「高値で買い取る」などと言って契約を勧める電話をかけてくる。
- ③勧誘会社や販売会社の他にも新聞社などをかたり、タイミングよく複数の者から電話がある。
- ④お金は、振り込み・郵便・宅配便、または近隣まで取りに来るなど手渡しを指定してくる。

このような手口に少しでも当てはまる時は、すぐに家族やまわりの人、消費生活センターに相談しましょう。悪質業者は言葉巧みに信用させお金を引き出そうとします。信用してお金を払ってしまうと取り戻すのは大変困難です。「買え買え詐欺」の被害に遭わないようにうまい話、もうけ話、怪しい話はキッパリと断りましょう。

— まずはお電話を! —

【問い合わせ】消費生活センター TEL 0291-34-6446

